

## 養護学校はあかんねん！

表題と写真の DVD を初めて見た。

DVD 解説から一日本の共生共学（インクルーシブ教育）運動の原点はここにある！

「養護学校はあかんねん！」は、1979 年の養護学校義務化の年の 1 月、文科省前に義務化を阻止しようと集まった障害者当事者を中心とする人たちの 6 日間の記録映画です。

35 年前、彼らはすでに「差別の社会的障壁」と「インクルーシブ教育の必要性」を訴えています。35 年前のこの運動があったからこそ今があるのだと、熱い思いを感じます。しかし、35 年たっても変わらない現実も突き付けられます。さらに、今の私たちにこれだけのエネルギーがあるのだろうかとも思います。

だからこそ、一人でも多くの方にこの映画を視てもらい、新たなエネルギーにしていきたいのです。1 本しか残っていない 16 ミリフィルムを神戸映画資料館のご協力で DVD 化することができ、当時の情景を彷彿する素晴らしいできばえとなりました。かつて闘った皆さんと思いを共有し『障害者権利条約』を活かせる社会への原動力となれば幸いです。

写真下は、これまではみんなと「遊んだり話したり してたのが」、養護学校ではできなくなるという発言である。ひと言ひと言、体をふりしぼって話すことばが心に響く。「本当にみんなと共に生きぬくと」と。

この 50 分の DVD を見て、いろいろ考えさせられた。1979 年というと、私が名古屋市立女子短大に就職して、女子学生に囲まれて緊張気味に講義していた頃だ。今から考えると、恥ずかしながら障害者問題にあまり関心がなく、わが「仕事」に追われていた。今回、映像を見て「養護学校はあかんねん！」という意味がそれなりに分かってきた。そんなことでは「あかんねん！」と言われそうだが、「これが真実だ」と言うしかない。あの時代は、障害者をまさに「隔離」する考えだった。まもなく「障害者差別」を解消する法律が施行される。障害者問題も歴史から学ぶことは多い。

(2016 年 2 月 15 日)

